

令和4年度 第1回 桐生市総合教育会議 議事録

1. 日時 令和4年11月1日(火) 午後3時30分～4時25分

2. 場所 桐生市役所 本館3階 特別会議室

3. 出席者

【構成員】 桐生市長 荒木 恵司
桐生市教育委員会
教育長 小林 一弘
教育長職務代理者 板橋 英之
委員 山野 玲子
委員 松本 昭彦
委員 飯山 千里

【事務局】 (市長部局)
共創企画部長 新井 利幸
企画課長 西條 敦史
スポーツ・文化振興課長 山田 和彦
青少年課長 星野 正史
新里支所市民生活課長 峯岸 孝徳
黒保根支所市民生活課長 松島 徳和
企画課企画戦略担当係長 森下 英明

(教育委員会事務局)
教育部長 戸部 裕幸
教育部参事 飯泉 尚士
総務課長 小山 貴之
教育未来室長 原橋 貴史
学校教育課長 柴塚 雄太
教育支援室長 渡邊 真宏
生涯学習課長 河合 恵子
文化財保護課長 萩原 清史
図書館長 浅野 都
教育未来係長 千葉 敦弘
総務課庶務係長 山本江美子

【傍聴者】 0人

【報道機関】 1社

4. 議 題

- (1) 桐生市立小中学校適正規模・適正配置基本方針（行政案）の骨子について
- (2) 今後の重点的に講ずべき施策等について

5. 議事の概要

(開始：午後3時30分)

○開会 〈司会：教育総務課長〉

○あいさつ

桐生市長 荒木 恵司

皆さんこんにちは、本日はご多用のところ令和4年度第1回桐生市総合教育会議にお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。また、委員の皆様方には教育行政はもとより、桐生市政各案に渡りましてお力添えをいただいておりますことに対しましても、重ねて感謝を申し上げます。

首長と教育委員の皆様方とで構成される総合教育会議ですが、平成27年4月に法改正によりすべての自治体で設置され、本市におきましても、同年7月にこの会議が設置をされました。その間、教育大綱の策定や教育に関する様々な事例に対する課題の解決、取り組むべき施策についてお話をいただいております。今日はとりわけ、小学校中学校の適正規模適正配置の基本方針案並びに今後重点的に講ずべき施策についてお話をいただくこととなります。

この会議を通じて、桐生に住む全ての子どもたちが健やかに成長されますよう、是非、皆様方の忌憚のないご意見を賜れば幸いに存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。以上です。

○協議・調整事項 〈議長：荒木市長〉

(1) 桐生市立小中学校適正規模・適正配置基本方針（行政案）の骨子について

発言者	発言内容
事務局 (教育部長)	「桐生市立小中学校適正規模・適正配置基本方針（行政案）の骨子について」ご協議いただくにあたり、事前に資料をお配りさせていただきました。 本内容に基づき、構成員の皆さまにおかれましては、「桐生市立小中学校適正規模・適正配置基本方針（行政案）の骨子について」ご協議いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。以上です。
市長	ただ今、事務局から説明がございました。事前に資料をお配りさせていただいておりますので、委員の皆様からご意見をお願いいたします。

発 言 者	発 言 内 容
板橋委員	適正規模適正配置により統廃合をするということになると、小学校低学年の児童にとっては、場合によると通学の距離が伸びるということになりますが、どのような対策等を考えているのかお聞きしたいと思います。
教育未来室長	<p>事務局からご答弁申し上げます。審議会の答申にもありましたとおり、学校の統合に伴い、通学距離や通学時間が長くなることが当然想定されます。まずは、児童生徒の通学環境の安全確保に十分に配慮する必要があると考えております。</p> <p>それと同時に、通学時間が伸びることによって、児童生徒や保護者の負担が大きくなります。基本方針の骨子案にもありますとおり、一定の通学基準というものを踏まえまして、公共交通機関の活用やスクールバスの導入など、多様な通学手段の確保を地域の実情等踏まえて講じていく必要があると考えております。</p>
板橋委員	通学時間が長くなることで時間を無駄にしないように、新たなICT関係の教育システムもありますので、そういうものを取り入れながら、通学時間を無駄にしないような、桐生ならではの通学の仕方を考えていただければと思います。よろしくお願ひいたします。
山野委員	見やすい資料の作成ありがとうございました。学校は、地域社会の将来を担う人材を育てる場でもあり、また、地域住民の交流の場としての性格を有していると思います。保護者や地域住民との共通理解を図りながら進めていく事が重要であると思いますが、今後、適正配置を円滑に進めるための取り組み、準備等がありましたらお聞かせください。
教育未来室長	学校の規模の適正化にあたりましては、保護者や地域住民の皆様と小中学校の現状や課題等につきまして、認識を共有させていただきたいと考えております。そうしたことを踏まえ、皆様のご理解とご協力を得ながら協議は進めなければならないと認識しているところでございます。現在のところは、この基本方針の内容について検討しているところです。具体的には、まだ申し上げる段階ではございませんが、あくまで教育委員会としましては、児童生徒にとってより良い教育環境をとということを念頭に置きながら進めるよう検討してまいりますので、ご理解のほどよろしくお願ひいたします。
山野委員	適正化を進める協議がうまく進まない、学校現場や子ども達、保護者にマイナスの影響があるかと思われます。特に、保護者が不安になると子どもに直に影響するので、「誰のための学校統合か」という軸のぶれない協議が進むように十分な準備を是非よろしくお願ひいたします。
市長	今、山野委員からご指摘があったとおりご理解とご協力を得ながら進めるというのが、適正規模適正配置の基本だと思いますので、その線を崩さずにお願ひしたいと思います。よろしくお願ひします。

発 言 者	発 言 内 容
松本委員	<p>全体的な基本方針について読ませていただいて、非常に分かりやすい方針を策定していただいたと思っています。おそらくこれを読まれて、あるいはご覧になって、将来桐生の少なくとも子供達の数、ある意味危機的に減ってくるというようなこと、そして今市長さんがおっしゃいましたように、子供達にとって本当にそういう中で、よりよい学校というのはどういうものか、そういうところを考えて行く、そのもとになる方針かと思えます。ただ、おそらくこういったことを進めるに当たって総論賛成、各論反対という、当然そのようになりますので、先程来の話があるように、地域の方々のご意見等を十分踏まえて、そのようなことは基本線としては通さなければいけないだろうと思います。</p> <p>これはお願いですが、そういった時に、例えばこういうような形で子供達によりよい教育環境が用意できるというような、そういう道筋であるとかあるいはこういうふうな形のものがあるよ、というようなところについての一般の方々が描ける学校の将来像みたいなものをこの後十分と協議していただいて、一つではなくていろんな教育の形、学校の形があつていいと思うのですが、そういったものをこの後具体的にお示しいただいていくと良いかと思っています。是非、よろしくお願いします。</p>
教育未来室長	<p>いろいろとご指導ありがとうございます。松本委員さんのおっしゃるとおり、まず、私ども教育委員会としましては、これから地域の皆様、保護者の皆様と子供達の将来について、どのような教育をしていいのかといったことをご説明申し上げながら協議を進める必要があります。その時に、松本委員さんのおっしゃったとおり、学校規模の適正化を進めていく上で、今後桐生の学校はどのような魅力ある学校づくりをしていきたいのかと、そういったことを十分にお話しできるように、教育委員会としましては一丸となって、学校規模の適正化が良い契機となるように進めて参りたいと考えております。今後ともよろしくお願ひいたします。</p>
松本委員	<p>子ども達のために、あるいは先程ありましたように、地域の皆さんのためにということなので、是非、有意義なその時に核になっていただけるよう、よろしくお願ひしたいと思います。</p>
市長	<p>将来像というか未来像を達成するための一つの手段として、適正配置があるのだと、こういう所をしっかりと示しておくのも大切だと思いますので、引き続きお願ひしたいと思います。</p>
飯山委員	<p>スケジュールについてお伺いしたいのですが、検討開始時期が該当する見込みの年から3年遡った年度というところで、資料にもありますが、予想される人口推移を考えると、すごく先の25年後とかには今の小学校や中学校が半分ぐらいの数になってしまう可能性もあるのかと思います。来年度から適正配置の検討をはじめるといふ学校があるということも分かっ</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>る中で、どのくらい未来を見て検討するのか、段階的にある規模に落として、またさらにもう一度規模を合わせていく工程があるのか、一気に統合を進めていくのかによってイメージがだいぶ違うと思い、心づもりをしたり、みんなで考えるという意味でスケジュールをお伺いします。</p>
教育未来室長	<p>現在、学校適正配置の進め方、委員ご指摘のこれからの取組につきまして、現段階では具体的なスケジュールというのは申し上げられません。全域に渡って、これからの少子化の進展については見えておりますが、現在のところの学校規模とか、仮に学校の統合となりますと、一緒にしたら大規模校になってしまっているのかと、色々な問題があるかと思えます。そういったものを踏まえて考えていかななくてはならない問題ですので、段階的にあるかどうかということも踏まえて、まずは検討させていただき、また、来年度以降保護者の皆様や地域の皆様と協議する中で、どのようなことで進んでいくべきなのかということが重要かと思えます。先をある程度見るということも大事なのですが、そういったことを踏まえまして、現在検討させていただいておりますので、ご理解いただければと思います。</p>
飯山委員	<p>今すぐには分からない、将来遠い話だとは思いますが、イメージとしては対象となった地域の方以外も、市の目指す教育環境の理想像のイメージみたいなものも、あらかじめシェアしておけると、スムーズにいくのかと思えますので、是非、対象地域だけではなく全体へのアナウンスもお願いできればと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございます。大事なことですので、頭に入れながら進めていただきたいと思います。</p> <p>最後に教育長からお願いいたします。</p>
教育長	<p>桐生市立小中学校適正規模・適正配置審議会で、昨年度から何度も話し合い検討していただいた答申を、この8月に頂きました。答申を開いてみますと、桐生の子供たちが、夢を持って学び、健やかに成長できるようにという願いが込められていると感じました。</p> <p>私たちも、その答申の趣旨を尊重し、教育委員会としての基本方針をつくるにあたり、なによりも、桐生のこれからの子どもたちのために、これからの子どもたちの未来を考えて、魅力ある学校づくりを進めてまいります。</p> <p>今の子供たちが生きていく将来は、今まで以上に、社会構造や働き方も変化していきます。</p> <p>そして学校教育には、一人一人の児童生徒が、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる力をつけることが求められています。</p> <p>このため、現在もこれからも小中学校には、教科等の特質や児童生徒の</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>実情を踏まえながら『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実し、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげていくことが求められています。</p> <p>そこでは単に教科等の知識や技能を習得させるだけではなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが大切です。</p> <p>桐生市立小中学校適正規模・適正配置基本方針の検討を契機として、今まで以上に、桐生の子供たちが、未来に夢を持って学び、健やかに成長できる教育環境の充実を図りたいと思います。</p>
市長	<p>今、教育長からあった総括のように、適正規模・適正配置が子供たちの健やかな成長のための大きな柱になるということで、市民の方や地域の方々にもご理解いただいて、丁寧に進めていただけますようお願いしたいと思います。</p> <p>次に「(2) 今後の重点的に講ずべき施策等について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (教育部長)	<p>「今後の重点的に講ずべき施策等について」ご協議いただくにあたり、事前に資料をお配りさせていただきました。</p> <p>資料「第2期桐生市教育大綱に関わる主要事業」につきましては、第2期教育大綱の6つの基本方針ごとに、第六次総合計画に掲げた事業を関連事業として示したものについての実績及び実施予定事業となります。</p> <p>本内容に基づき、構成員の皆さまにおかれましては、「今後の重点的に講ずべき施策等について」ご協議いただきますよう、よろしくご申し上げます。以上です。</p>
市長	<p>ただ今事務局から説明がありましたが、教育委員の皆様から順次ご質疑をお願いいたします。</p>
板橋委員	<p>資料5ページの学校適正配置の推進についてですが、教育長からも話があったように、統合することは社会性を子供たちに身に付けさせる為に非常に重要であります。運動会のダンスの練習でタブレットを使って個別に行った後に、一緒に集まって演技をした時に、達成感に欠ける感じがあったと聞いております。集団で一緒になって取り組む活動が学校教育では重要です。なので、適正規模・統廃合を進めていくことは、教育にとって非常に重要であると考えております。その際に、松本委員からもあったように、総論賛成・各論反対とある中で、各論反対の中で大きいのが、学校が遠くなることで通学に困る、統廃合後の廃校舎がどうなるのかということだと思います。その二つをクリアすることで統廃合が進んでいくと考えます。スクールバスについては、どのように考えているのかをお聞かせくだ</p>

発 言 者	発 言 内 容
	さい。
学校教育課長	<p>現在、市内4校で合計7台のスクールバスを運行しております。今年度は小学生が144名、中学生が23名スクールバスを利用しております。</p> <p>利用基準は地域によって多少異なりますが、原則として、山間部で、通学距離が約2km以上の場合としております。</p> <p>今後、適正配置を具体化する中で、スクールバスの導入も検討する必要があると考えております。</p>
板橋委員	<p>スクールバスがもっと必要になってくると考えています。JSTの「共創の場」群馬大学と桐生市と一緒に提案したものについては、残念ながら不採択になってしまったのですが、その中で提案したリモートコントロールモビリティによる地域の活性化の策があります。スクールバスはバスの運転手の人件費がかかってしまうので、リモートコントロールモビリティで集中管理をして、人件費を抑えると共に将来的には全て自動化するシステムを桐生市が真っ先に取り入れるチャンスだと思っていますのでご検討いただければと思います。</p> <p>また、使わなくなった学校をリモートコントロールの共創化センターにして有効活用することで、地域の皆さんにも理解いただけるのではないかと思います。地域の人達の足を確保する、コントロールするためのセンターに廃校舎を使っていく。スクールバスに関しては、リモートコントロールで、子どもたちを学区まで移動させると共に、その間にICT技術を使ってバスの中でも教育をするシステムを全国に先駆けて導入することができると思います。</p>
学校教育課長	<p>学校規模の適正化を進める際には、通学環境への配慮は大変重要であると考えております。まずは、情報収集に努めてまいります。貴重なご意見ありがとうございました。</p>
市長	<p>板橋委員には、これまでも自動運転を始めいろいろとアドバイスをしていただきましてありがとうございます。今回も、集中管理自動化ということで、リモートコントロールモビリティの活用については、一緒に桐生市もご助言いただきながら進めてきた経緯もありますので、前向きに検討していきたいと考えております。</p>
山野委員	<p>本日新聞報道にもありました、総合教育センターの構想及び期待すること、現段階で具体的な建築構想や計画等分かる範囲で説明をいただけたらと思います。</p>
教育総務課長	<p>総合教育センターにつきましては、現在の教育研究所等の既存教育施設を集約し、第2期桐生市教育大綱の基本方針や桐生市第六次総合計画の分野別施策を実現する教育基盤の充実を図るための施設として位置付けております。</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>具体的な建築計画としては、旧西中学校の第1舎、屋内運動場（体育館）及び屋外プールは老朽化が著しいことからこれを解体し、第1舎の跡地部分にエレベーターを備えた玄関機能と適応指導教室を中心とした棟を建設し、屋内運動場と屋外プール跡地部分に駐車場を整備する予定となっております。</p> <p>また、第2舎と第3舎につきましては、改修工事を実施して延命化を図り、教育委員会事務局や教育研究所、教育資料室や文化財保護課埋蔵文化財係などが執務する事務所や会議室などとして活用していく予定となっております。</p> <p>次に総合教育センターを整備したのちに期待する内容といたしましては、教育委員会事務局と教育研究所が一体となることで、教職員研修の計画策定や適応指導教室の相談体制、教育相談などを一元化することができ、研修機能や理科教育、不登校、生徒指導対策等について、学校や園への支援の充実が図れるものと考えております。</p> <p>また、教育資料室と文化財保護課埋蔵文化財係も集約することで、教育資料の充実が図られ、教職員研修や授業で活用する資料が充実するとともに、現在は西小学校内に設置されていることで、貴重な資料が市民の目に触れにくくなっている状況を解消することも期待できます。</p>
山野委員	<p>適正配置をはじめ、桐生市の教育が5年後10年後大きく変わるこの時期に、総合教育センターが設置されるということに、とても大きな期待を抱いております。適応指導教室の通室生が、安心安全で学べる環境はもとより、困難を抱える一人一人の状況に応じた支援ができるような環境、桐生市の先生方が足を運びやすい環境、教育委員会事務局の皆さんが、子どもたちのために豊かな発想で日々の執務にあたるような快適な執務環境、指導室、文化財保護課、多様な知識や経験を有する市民が足を運びやすいような総合教育センターができるよう期待しています。是非、関係機関や担当課の意向を十分取り入れ、桐生市の教育の中枢をなす教育センターとなることをお願いしたいと思います。ありがとうございました。</p>
市長	<p>大変貴重なご意見ありがとうございました。参考にさせていただきながら進めていきたいと思っております。</p>
松本委員	<p>今、話題となっている、学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について、全国的に取り組みが進められていると思いますが、前から話題となっており、桐生でも取り組んでいただいていると思います。いろいろと話を聞く中では、指導者や施設をどうやって確保するのか、参加費用の保護者負担をどのようにするのか、教職員の意識改革、保護者や地域の方の期待をどのように担っていくのか等課題があると思いますが、どのようなかたちでの対応を考えているのかが一点目。</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>もう一点目は、裏返して考えると、今まで学校の中だけでスポーツや運動をやってきた中学生が社会に出ていく、社会からすれば、新たな中学生という子供たちが社会のスポーツの中に入ってくる。社会スポーツからすればチャンスなのではないかと思えます。子供たち自身が生涯スポーツを身に付けるということ、あるいは生涯スポーツの観点から、どんな形で受け入れていったらいいのか、そういったことを考えるひとつの契機になるのではないかと考えます。この二点について、お考えを伺えればと思えます。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」に関しては、ご指摘いただいたとおり、本件につきましては、国や県、報道等でも数多く取り上げられておりまして、様々な課題が浮き彫りになっているところです。</p> <p>現在、担当課としまして、関係団体である中学校体育連盟、各競技団体に出向きまして、部活動の地域移行について趣旨説明をさせていただいております。様々な課題の解決策として、現在考えられることといたしますと、例えば、指導者の確保につきましては、部活動指導員や外部指導者の活用、部活動の指導を強く希望する教職員の兼職兼業、施設・設備の確保につきましては、学校施設の利用や減免措置のあり方の検討などが考えられると思えます。</p> <p>また、参加費用につきましても、大きな課題だと思えますが、今後各団体と相談しながら、保護者負担の軽減、適正な額での運営をお願いしていくことが必要であると考えております。</p> <p>国や県も、検討委員会を組織し、県も今年度何回か「あり方検討委員会」を実施しております。様々な課題に対する具体的な方策・提言が下りてくると思えますので、桐生市といたしましても、現在設置しております「桐生市部活動運営の在り方検討委員会」において、国や県の提言や方策を参考に、教職員や各団体の意向も大切にしながら、また、部活動についてはみどり市との連携も深くなっておりますので、他市町と情報共有しながら課題解決に向けた具体策について協議を進めていきたいと考えております。</p>
<p>スポーツ・文化振興課長</p>	<p>社会からの視点ということで、部活動と直結していることではないかもしれませんが、子どもを対象とした文化・スポーツの取り組みについてご紹介させていただきます。</p> <p>現在桐生市では、市の主催事業のほか、桐生市スポーツ文化事業団など市内の各団体の協力を仰ぎながら様々な事業を展開しているところです。</p> <p>文化については、小学3年生から中学3年生を対象とした大川美術館の無料優待券の配布や、マーチングフェスティバルの開催など、芸術や音楽に親しむ事業を実施しております。また、市民文化会館では各種コンサ</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>一トのほか、市内中学校の吹奏楽部の生徒を対象に群馬交響楽団団員と連携した器楽セミナーなども実施しております。</p> <p>スポーツについては、桐生市堀マラソン大会や、小学生を対象とした陸上競技教室をはじめとする各種スポーツ教室の開催、また、プロスポーツ選手との交流の場の創出のため、子どもたちを対象にしたイベントを実施しております。</p> <p>これらの事業につきましては、引き続き、市内の各団体と協議を重ねながら、様々な文化芸術やスポーツに親しむ機会を提供することで、子どもたちの生活を豊かにできるよう努めてまいりたいと思います。部活動との連携の点については、今後、教育委員会の方針が定まってくると思いますので、各団体とも協議・調整しながら進めていきたいと考えております。</p>
松本委員	<p>話としては、働き方改革から出てきた話ですが、子どもたち側からすると、今までの学校でのスポーツや音楽活動が社会に出ていくことで、子どもたちの多様なニーズに対応できるきっかけになると思います。100人の中学生の中でも、部活動に力を入れたいという子もいれば、友達同士のつながる場として考えている子、自分で習い事をしたいといった多様化はあると思います。それが、社会に出ていくことで、子どもたちのそういった多様なニーズに応えられるチャンスでもあると思うので、是非、部局間連携をしていただきながら、子どもたちがきちんと社会に出られるように対応をお願いします。</p>
市長	<p>今、運動会の徒競走でも順位を付けないような話が出ており、勝敗の部分についてはいろいろ議論があるかと思いますが、一部のスポーツ指導者の考え方のひとつの中で、勝ち負けがあるから、大人になってからの挫折や失敗に耐えられる。練習試合等は、わざと強いところを相手にして、負けのところから学び、社会人になった時に立ち直れる力を作っていくのだという話を聞いたこともあり、松本委員からの話につながってくるかと思います。部活動の移行だけということではなく、大義の部分のあり方も同時に考えてもらえればありがたいと思います。</p>
飯山委員	<p>図書館からの活動報告を受けるなかで、ソフト面でのいろいろな活動や画期的なご提案やアイデアから活発な取組みがされていると拝見しています。先月は、全国図書館大会などでも取り上げられ素晴らしいと感じております。反面、ハード面においては施設の老朽化から、市民の多様な活動の受け皿として十分に応えられるような状態ではないとの指摘もあるかと思います。それを受けて二つの質問ですが、本やデジタルデータの収集や管理が主な仕事であると思いますが、市民の教育文化拠点として、これからの図書館のあり方には、どのような目標があるのかというのが一点目。</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>もう一点が、現状の既存施設の状態の把握や市民ニーズの調査、参考事例の研究というのはどのくらい進んでいるのかをお伺いします。</p>
<p>図書館長</p>	<p>「市民の教育・文化の拠点としての、今後の図書館の在り方についての目標」については、これまでの桐生市立図書館の歴史を継承しながら、一般資料、郷土資料、野間文庫などの豊富な資料と情報を提供して、市民の学びや研究を支える情報集積の場であることはもちろん、様々な世代が集い交流し、本を読む人も読まない人も、誰もが心地よく過ごせる場となること。そして、近隣の学校に通う学生や、桐生駅を利用する学生にとって、表現やものづくりなどを通して、積極的な創造や活動の場ともなる、桐生市全体の活性化に寄与する施設づくりを目標としております。</p> <p>現施設においては、十分な広さや機能を持たないために実現出来ないこともあります。可能な限りのサービスを提供するとともに、今後も様々な工夫をしながら、市民に親しまれる図書館づくりに取り組んでまいりたいと考えております。</p> <p>既存施設の状態の把握については、図書館は開館から43年経過しており、蔵書数の増加による狭隘化や、老朽化による不具合等については認識しており、将来的な建て替えは必要であると考えております。現在は、市民ニーズを捉えた運営方法やサービス、将来的に必要な図書館機能の検討等、先進他市の事例など、情報を広く収集しているところです。</p> <p>市民ニーズの調査については、図書館独自のアンケート等は実施していませんが、昨年度市民相談情報課が実施した「市民の声」アンケートの中で、サービスの充実や施設改善の要望などをいただいております。他にも、日々の業務の中で利用者から直接ご意見をいただくこともあり、利用の様子から職員が必要を感じ取る場面などもあります。例えば、学習のために利用している学生の飲食スペースや子どもが騒いでも気兼ねなく利用できる子ども専用スペースの設置、バリアフリー環境の整備等、ニーズとして認識し情報として日々蓄積しております。</p> <p>参考事例の研究については、図書館の新設や改築、新しいサービス等の情報を得たのちに、それぞれホームページなどで基本構想や市民ニーズの聴取方法、規模やそれに合わせた建設期間や費用、運営方法や複合機能などの情報を収集しております。</p> <p>特に、市民ニーズの聴取方法については、ワークショップ形式で幅広い利用者層から意見聴取する事例が多く、市民ニーズの把握には最も効果的ではないかと考えております。今後は、これまでコロナ禍で出来なかった先進地視察についても、可能であると思っておりますので、桐生市の目標に近い図書館に伺い、資料上ではわかり得ない詳細な情報も手に入れたいと考えております。</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>事例研究の進捗については、現在このような情報を収集・整理、さらにブラッシュアップしながら、計画作りに反映できるよう取り組んでいる状況です。</p>
飯山委員	<p>いろいろな情報を集めていただいたり、ワークショップであったり、これからの桐生の図書館のあり方を検討していただいているのかと安心しました。市民の教育文化の拠点ということで、生涯をかけて学んでいく姿勢であるとか、文化的なものにも市のスタンスが現れる街の図書館として期待をしていきたいと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございます。最後に教育長からお願いいたします。</p>
教育長	<p>各教育委員さんからは、それぞれ、将来、未来を見据えた様々なご意見ご提案を頂きました。教育委員会といたしましても、いただいたご意見を参考にして、今後の事業に生かしてまいりたいと考えています。</p> <p>また、現在行っている「サイエンスドクター事業」「未来創生塾」「織物体験」等の、地域の特色を生かした、全国にも誇れる教育を通じて、郷土桐生への愛着や誇りの気持ちを育むとともに、夢や志に挑戦するために必要となる力を育成したいと考えています。</p> <p>さらに、教職員の資質・能力の向上、学校施設の整備や学習環境の充実を図るとともに、放課後子供教室や、今後の部活動のあり方等、学校・家庭・地域がそれぞれの立場から子供の教育に責任を持ちながら相互に連携協力し、安全・安心で、子供にとって魅力ある教育環境づくりを推進したいと思います。</p> <p>また、子供から大人まで、生涯にわたって学び、学ぶことを楽しむために、市民の知識や感性を高めるだけでなく、身に付けた学びの成果や経験を地域での活動に生かしながら、歳を重ねても元気に活躍し続けられる環境を今後も整えたいと思います。</p> <p>以上のように、今後も『桐生の未来を担い、世界に羽ばたく人づくり』に努めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
市長	<p>私からは、現在桐生市が取り組んでいることについてお話しをさせていただきたいと思います。一つ目が、桐生市には日本遺産というのが群馬県で13ある構成資産の中で6か所ありまして、日本遺産を活用するなかで、小中学生を中心にした子どもたちに、観光ガイドの育成をお願いしております。未来創生塾のなかで、ジュニアアンバサダー制度という、講習を受けて日本遺産を紹介できるようになった子どもたちに、認定証を送る制度を作っているところです。先日も、群馬大学の講堂からスタートして日本遺産を塾生がガイドして周った際には、一緒についていた案内人の会の方々に感想を聞いたら、とても上手で良く勉強しているので、観光客もファンになってしまうのではないかとのお話をいただきました。今の観光の</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>リピーターのあり方が、「もう一回同じものを食べたい、もう一回同じものを見たい。」という傾向から「人に会いたい。」というリピーターに変わってきていると聞いています。つまり、子どもたちが日本遺産を案内し、今度は違う所をその子供たちに案内して欲しいというリピーターが増える。このことによって、桐生の観光においても良い方向に向くと思えますし、更に子どもたちが自分たちの地域を勉強することで、教育長がいつも言っている、桐生を好きな子どもに成長していくきっかけづくりとして、子どもたちの観光ガイドは非常に良いかなと思っておりますので、是非、進めていただきたいと思います。もう一つが、昨年から始まった「ミニきりゅう」が、山野委員からもお話をいただいております、今年も11月5日6日と青年の家を中心に行われますが、ミニミュンヘンというのが元々の題材で、子どもたちだけが作る仮想の街です。大人の今の社会と全く同じことを子どもたちの中で作るわけですが、働いてお金を稼ぎ、税金を払って、自分が好きなお店も出せるし、悪いことをしたらおまわりさんにつかまるし、裁判にもかけられる。市役所の職員にもなれるという様々な職種を体験できるような取り組みです。子どもたちが積極的に、自分たちの街「ミニきりゅう」をこうやって作るのだと、子ども会議の中で良い取り組みができています。当日を非常に楽しみにしております。群馬県では桐生のみでの取り組みですが、全国的には取り組んでいるところもありますので、日本一の「ミニきりゅう」を作ろうとお願いしております。是非、見守っていただければと思います。また、ヤングケアラーの問題も、子どもすこやか部を中心に講習会を行いました。教育委員会でも、生活アンケートを実施しております。実態把握をしたうえで早期発見・早期支援に向けて、教育委員会でも対応ができるように、よろしく願いいたします。</p> <p>本日協議させていただいた内容を踏まえ、他の関係部局・関係機関とも調整を図りながら、しっかりと取り組んで行ければと考えております。ありがとうございました。</p>

○その他 〈説明：教育総務課長〉

- ・ 次回の会議開催は現時点では未定。
- ・ 意見交換の場を設ける場合やその他の緊急な協議事項が生じた場合には、随時、日程等の調整をさせていただく。

○閉会 〈司会：教育総務課長〉

(終了：午後4時25分)